# 生き生き津高

Vol.2 3

三重県立津高等学校　２０２２．３

# 生徒会執行部

## 「生徒会長になって」

2 年　大久保　春空（鈴鹿市立神戸中学校）

津高校では「自主・自律」の精神のもとに有志の生徒が中心となり生徒会活動を行っています。活動内容は主に体育祭や文化祭、レク大などの行事の企画・運営です。会長はその行事で挨拶をしたり、対面式の準備などをします。今年は新型コロナウイルス感染症の影響で上記の行事が縮小・中止され、思うように活動できない日々が続いていますが、誰もが楽しめる学校生活を送れるよう生徒会全体で学校行事を盛り上げています。そして、ここでは生徒会は実際どうやって運営されているのかについて説明したいと思います。

## 「レク大担当の活動」

勉強に追われ楽しいことに飢えている津高生が最も楽しみにしている行事の1つがレクリエーション大会、通称「レク大（れくたい）」です。レク大は春と夏に3日間ずつ行われます。この3日間は授業がないので、生徒全員が本気でこのレク大に臨みます。行われる種目はスポーツ系（バスケ、サッカーなど）と、テーブルゲーム系（オセロ、大富豪など）があります。さらに見どころは、本気の戦いにふさわしい、クラスメイトの本気の応援です。サッカーでシュートが決まったら「キャー」、オセロで角を取ったら「キャー」という具合です。最後にレク大担当の仕事についてですが、主な仕事は選手登録、会場のセッティング、審判などです。当日は動き回ったりして忙しいですが、自分の競技の時は抜けても大丈夫です。生徒の期待が高いだけあってやりがいのある楽しい仕事です。

レク大　　サッカー

# 「文化祭担当の活動」

文化祭は2日間行われる津高の一大行事です。今年度は中止となりましたが、本来初日は三重県総合文化センターで行われ（非公開）、2日目は本校で行われます（公開）。私たち生徒会の文化祭担当はその企画・運営を担当します。1日目の非公開の部は文化系クラブが発表し、また、津高独自の出し物である教員劇や有志発表もあり大いに盛り上がります。2日目の一般公開の部も、クラスのみんなと一致団結して模擬店を開いたり、1日目で発表していない文化系クラブも発表したりし、老若男女を問わず沢山の人が訪れます。私たち生徒会は、より多くの人に楽しんでもらえるように各クラスのチェックやパンフレットの作製・配布等を行い、企画を支える重要な役割を担います。生徒会は文化祭の1日目、2日目ともに大変な仕事ばかりですが、成し遂げた後には大きな達成感があり、やりがいもあります。

文化祭　軽音楽部発表

文化祭　準備の様子

文化祭　クラスの出し物

# 「体育祭担当の活動」

前期半年間の津高生活を締めくくるのは、終業式でも授業でもなく、なんと体育祭。津高の学校行事では唯一の、3学年縦割り活動となっています。学年の垣根を越え、津高生全員で大いに盛り上がり、各々の高校人生に彩りを添える、まさに「青春の1ページ」です。競技の内訳は、リレーや綱引きなど定番のものから、しっぽ取りやキャッチングホイールなどユニークなものまで様々です。生徒会体育祭担当は、全員で協力しながら本番に向けて準備を進めます。直前期や当日は本当に忙しく大変ですが、全行程が終了すると達成感や充実感でいっぱいになります。

# 津高キャリアプロジェクト「西村ゼミ」

三重大学教授・西村訓弘先生の指導のもと、「三重県の活性化」をコンセプトにゼミ形式で討論し考えをまとめ、班別に提案するという活動をしています。

第11回となる今年度は、1、2年生19名が参加し、「三重の地域を元気にしよう」というテーマのもと、「三重県にあるものを活用しながら、どのように地域を活性化できるか」ということについて考えました。それぞれの班が独自のアイデアを出し合い、ゼミでの討論や西村先生からの助言を経て、具体的な形にしていくことができました。

**【各班が提案した企画】**

1 班「おいでよ　くまの森」

宿泊施設を利用し、東紀州の魅力を体験してもらう企画。グランピングやワーケーションなどを組み合わせ、大人から子どもまで全ての人に東紀州の自然、食べ物を満喫してもらう。

2 班「OKAGE　LIVE」

YouTube のライブ配信機能を使い、伊勢市のおかげ横丁を中心に現地中継型オンライン販売を行う企画。動画を視聴しながら郵送された食品の調理や工芸品を作成するなど、様々な楽しみ方で三重の魅力を知ってもらう。

3 班「yumyum ガチャ」

県内の有名食品をカプセル商品（ガチャガチャ）化して販売する企画。県内外にガチャガチャを設置することで、ドキドキ感を楽しんでもらうと同時に三重の企業を知ってもらう。

4班「みえんじょい株式会社」

三重県南部に来る外国人観光客と学生ボランティアをつなぐ会社。観光客の要望に合わせた旅行プランを提案し、学生に協力してもらいながら異文化の交流を促進する。

【参加生徒の感想（一部抜粋）】

## 1年　岡野 日向子（津市立橋北中学校）

普段関わることのない先輩方と仲良くなれたり、試行錯誤を繰り返しても完璧にならないことがあったりしておもしろかったです。

## 2年　足立 萌恵（三重大学教育学部附属中学校）

他者との交流が楽しかったです。身の回りで起こることについて、よく考えたり、地域の抱える課題や良さを知ろうとしたりするなど、関心が高まりました。

## 2年　成相 日葉里（津市立一志中学校）

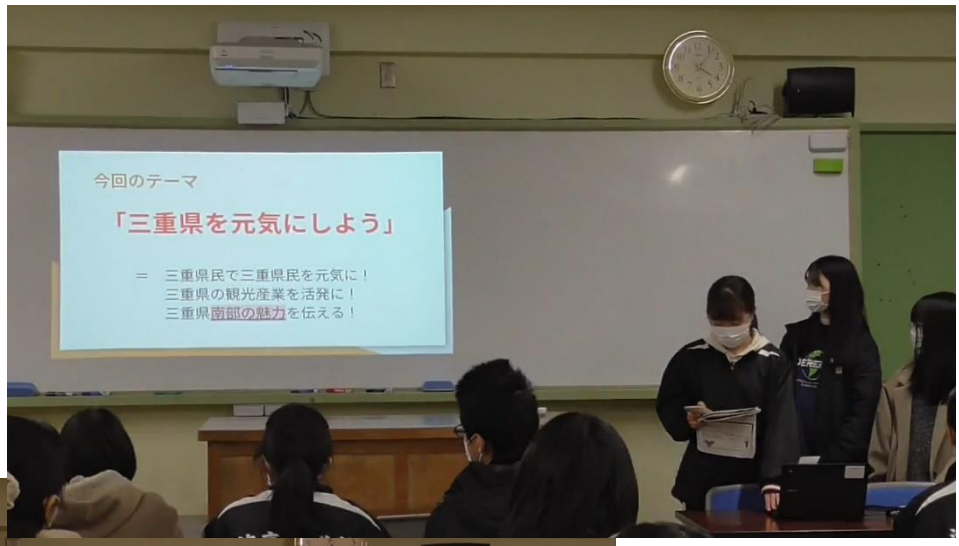
知らなかった三重の良さを知ることができたので、特に南三重には行ってみたいと興味が出ました。私みたいに思う人が増えることも三重の活性化につながると思うので良いことだと思います。

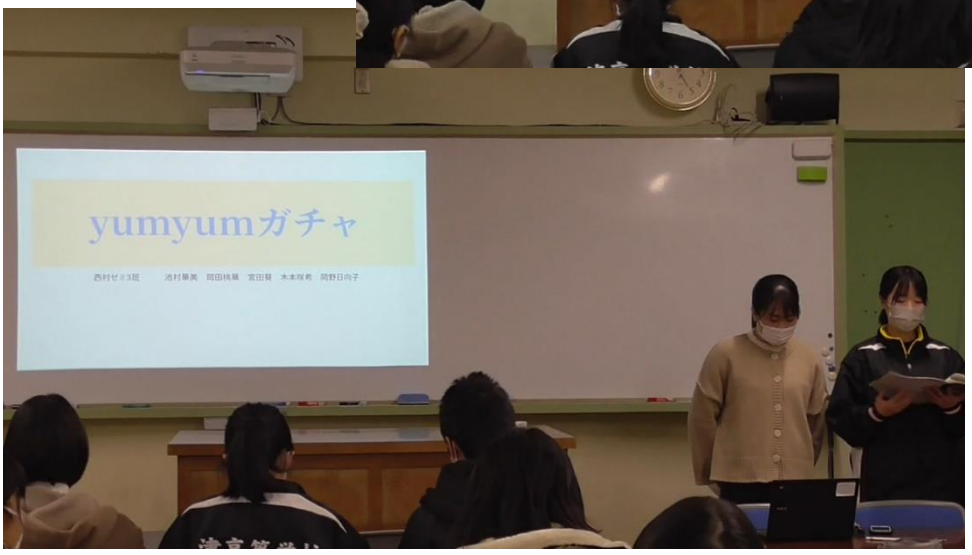
## 2年　関戸 愛（津市立橋北中学校）

複数の人と一緒に同じ問題を解決するために話し合ったり、色々と工夫をしたりして、たくさんの人の考え方を知ることができました。様々な人の意見を取り入れていくのは難しいことだと改めて感じましたが、やりがいもありました。

## 2年　瀬古 日向（鈴鹿市立白子中学校）

何かを企画するときなどに、それを利用する人の視点を大切にしたいと思います。また、企画ではなくても、常にいろいろなことに結びつけて考えられるようになりたいです。



# 文武両道をめざす

2年　池村　華美（はなび）（津市立西郊中学校）

　私は小学3年生の時、水球の体験教室をきっかけに**水球をはじめました**。
全国JOCジュニアオリンピックカップ、全日本ユース(U15)水球競技選手権大会、
全日本ジュニア(U17)水球競技選手権大会などの全国大会へ出場し、そして中学3年生で水球三重県代表に選抜され、最年少で**茨城国体に出場**することができました。

　当時、**国体チームの監督だった太田育臣先生**が津高に赴任され、水泳部の顧問の先生が**三重水球界のレジェンド指導者だった川井田先生**だということを知り、「絶対に津高に入学してお二人からご指導をうけ、文武両道を実現する」と決意しました。
　**水球をしていなかったら津高に入学することはなかった**と考えると感慨深いです。

　高校生活では休日の水球練習に加え、平日は水泳部で活動し**競泳の東海高等学校総合体育大会に出場**することもできました。
　2年生で前期**生徒会長に就任**し、勉強はもちろん水球と水泳部の活動、プラス生徒会の活動と多忙を極め、肉体的にも精神的にも本当に苦しい時期もありました。
　それでも頑張れたのは、友達や先生方の温かい励ましに加え、川井田先生に**“多兎を追うものは多兎を得る”**という言葉を頂いたからです。
「“二兎を追うものは一兎を得ず”ということわざがあるけど、**“津高ことわざ”**と言って津高ではその逆が実現できる」と先生はおっしゃってくれました。
その言葉を信じて毎日その時々に全力を尽くすようにしました。

　出場予定だった鹿児島国体・**三重とこわか国体**をはじめ、**ほとんどの大会がコロナ禍で中止**になり、目標としていた**水球ユース日本代表になる機会も奪われ**、やるせないし悔しい気持ちでいっぱいでした。
　そのような中、2021年8月に開催された**西日本女子水球競技大会では優勝**し、
結果を残す事が出来て嬉しかったです。久しぶりの試合でしたが緊張よりワクワクした
気持ちの方が大きくて、楽しんで水球をすることができました。

　そしていつも支えてくれる、友達・水泳部の仲間・先生方や家族に感謝しながら
これからも**文武両道をめざしていきます**。

# ジュニアテニス選手権大会

1年　湯浅　葉月(三重大学教育学部附属中学校)

私は 2021 年 8 月 18 日に行われた三重県高等学校テニス選手権大会 1.2 年生女子シングルスで 8 位、12 月 18 日に行われた三重県高等学校新人大会女子シングルスで 7 位でした。また、2022 年 1 月 8 日に行われた冬季ジュニアテニス選手権大会 18 歳以下女子シングルスで 7 位となり、第 75 回東海毎日ジュニアテニス選手権への出場権を得ることが出来ました。

私は、来年でテニス歴 9 年目になります。第 72 回東海毎日ジュニアテニス選手権大会シングルスでは 6 位で惜しくも全国大会出場にはならず、その悔しさをバネに頑張ってきました。しかし、新型コロナウイルスの影響により大会が中止になり力を試す機会が失われ、自分のテニスに自信がなくなっていました。その一方で、学校の成績が段々上がっていき勉強の楽しさを知りました。その結果、進路に迷っていた私は勉強も頑張ることで高校に行くことを決めました。沢山迷いましたが今では津高校に来て良かったと思っています。県外出身の強い選手が三重県の高校に在学している中で、自分が良い結果を残して、進学校でも頑張れば戦い合える、文武両道できるということを証明出来るように、これからも頑張っていきたいと思います。

# 全国高等学校英語スピーチコンテスト

2 年　小川　結珠音（名張市立北中学校）

第 14 回全国高等学校英語スピーチコンテスト東海北陸ブロック大会　第 3 位
第 31 回三重県高等学校英語スピーチコンテスト　準優勝

私は、第 14 回全国高等学校英語スピーチコンテスト東海北陸ブロック大会で 3 位に入賞しました。今回は私が夏休みに地元で行ったボランティア体験を基に、原稿を考えました。ボランティア体験では、地域との関わりの大切さや、地域の方々の温かさなどを学んだことがたくさんあり、伝えたいと思い発表しました。

Jessica 先生と Caroline 先生には、放課後にほぼ毎日１～2時間レッスンしていただきました。スピーチのこと以外でも、今日授業で学習したことや、先生方の母国や学生時代のことなど、いろんなことを先生と話せてとても楽しかったです。もちろん、レッスンではその日の目標が達成できるように、たくさん相談にのってもらいながら練習しました。

本番では、ほどよい緊張感でスピーチできていたと思います。他のコンテスタントのスピーチはどれも内容が深くて、聞いていてとても勉強になりました。同じ高校生がどんなことに注目して、どんなふうに考えているのかを知ることができ、自分ももっといろんなことに目を向けて、自分の意見を持てるようになりたいと思いました。

練習の時にはたくさんの学校の先生やクラスメイトに聞いてもらって、様々なアドバイスをもらいとても感謝しています。将来グローバルに活躍できるように、これからも英語を学び続けたいと思います。

# 卓球部

２年　後藤　駿介(部長・津市立朝陽中学校)

私たち卓球部は一人一人、常に「一本を大切に」質を意識して、一生懸命練習に取り組んでいます。
周りの強豪校と比べ練習量は少ないですが、団体戦で県大会3位、東海ベスト8、また個人で全国大会に出場する選手もいて、活気あふれる部活です。私たちがこのように良い成績を残せるのは、顧問の先生や OB の先輩方の指導はもとより、顧問の先生の教え子の方が練習に来てくださったり、卓友会(津高卓球部 OB 会)から卓球台を寄贈していただくなど、支援してくださる方々のおかげです。
感謝の気持ちを忘れずに、夏の団体戦にて県大会で優勝し、全国総体に出場することを目標にこれからも日々精進していきます。

## 活動

部員数:男子２年生　11 名　１年生　８名
　　女子２年生　１名　１年生　４名

活動場所:本校体育館

活動日:平日…火、水、木(B 週のみ)、金曜日
　　休日…練習、県内県外での練習試合、
　　公式戦など

## 成績

団体　三重県高等学校新人卓球大会男子学校対抗の部　3 位(令和3年 10 月 31 日)
　　三重県高等学校新人卓球大会女子学校対抗の部　3 位(令和3年 10 月 31 日)

個人 竹中秀斗　三重県高等学校卓球選手権大会男子シングルス　3 位(令和3年 8 月 20 日)
　雪岡治樹　全国高校選抜大会県予選男子シングルス２部　優勝(令和4年 1 月 15 日)※
　柴山夏穂　全国高校選抜大会県予選女子シングルス２部　優勝(令和4年 1 月 15 日)※
　※令和4年 3 月 18 日より栃木県で開催される、全国高校選抜大会の出場権を獲得
**第４９回全国高校選抜大会　２人共に５位入賞**

ダブルス　竹中秀斗　雪岡治樹　三重県卓球選手権大会男子ダブルス　3 位(令和3年 11 月 7 日)

# 水泳部

**【2021 年度 主な競技成績】**

≪三重県高等学校選手権水泳競技大会≫2021/6/26･6/27　三重交通グループスポーツの杜鈴鹿

≪女子≫　総合　第 5 位

〇立道愛和(2 年生) 200m平泳ぎ 2 位/100m平泳ぎ 2 位

〇田中利奈(1 年生) 800m自由形 1 位/400m自由形 1 位

≪男子≫

〇西久保貴都(2 年生) 200m自由形 4 位

〇富内公介(1 年生) 200m平泳ぎ 8 位

―また、上記他 2 名が東海大会にも出場しました。

≪令和 3 年度三重県高等学校新人水泳競技大会≫2021/10/10　三重交通グループスポーツの杜鈴鹿

≪女子≫　総合 第 2 位

〇立道愛和(2 年生) 200m個人ﾒﾄﾞﾚｰ 3 位/200m平泳ぎ 2 位

〇田中利奈(1 年生) 100mﾊﾞﾀﾌﾗｲ 3 位/400m自由形 3 位

◇4×50mﾒﾄﾞﾚｰﾘﾚｰ 2 位

◇4×50mﾌﾘｰﾘﾚｰ 3 位

## 【立道愛和(2 年生) 名張市立名張南中学校出身】

私のモットーは「水泳と勉強の両立」です。
具体的には、水泳では全国大会の上位に入り、勉強では第一志望校に合格することです。

高校 2 年の夏、私にとって 2 年ぶりの全国大会となるインターハイに　出場しました。高校生になってから思うような結果を残せず苦しいことが多くありましたが、家族や仲間に助けてもらい、たくさんの先生からアドバイスをいただいて標準記録を突破することができました。2 年間、とてもたくさんの方々に支えていただきました。またコロナ禍での開催ということでもあって感謝の気持ちで溢れたレースとなりましたが、悔しい結果に終わってしまいました。そのリベンジを果たすべく、次の夏もインターハイやジュニアオリンッピックに出場し上位に入りたいです。また、勉強でも良い成績を残してこそ水泳があると思うので、将来の夢のために、これら 2 つの両立をがんばっていきます。

**【活動状況】**

≪部員数≫　男子:9･女子:7(ﾏﾈｰｼﾞｬｰ:1)

≪活動場所≫　5 月～10 月(夏):学校のプール、トレーニング室

10 月～5 月(冬):サオリーナ、トレーニング室

≪活動日≫　ほぼ毎日あります！

幼い時から水泳をやっている人もいれば、高校から水泳を始めた人もいるように、「泳ぎたい！」という思いがある人なら誰でも入ることのできる部活です。

先輩後輩関係なく、みんな仲がよく優しい人たちばかりの部員です。月に一度大会に出ることができるくらい多いので、何度も記録更新にチャレンジできます。「水泳で強くなる」をモットーに、これからもみんながお互いに助け合いながら、毎日の練習や勉強をがんばっていきます！

# 新聞・写真部

## みえ高文祭に実行委員として参加して

2年　林田 智輝（名張市立北中学校）

私は新聞・写真部の部長として和歌山であった全国高文祭や米原であった近畿高文祭にも参加しました。県内では去年度のみえ高文祭終了後に大きなやりがいを感じ、また機会があればしたいと思っていたところ再度声をかけていただき、みえ高文祭準備委員会に2回目の参加をしました。また、昨年度の経験を生かしてより良いみえ高文祭にしたいと思い、再び副委員長に立候補しました。

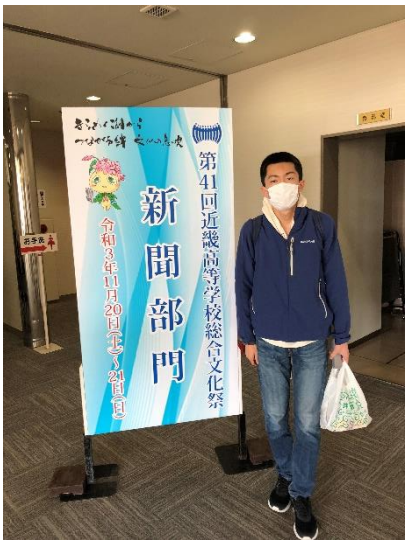
コロナウイルス蔓延により開催が危ぶまれたり、委員会の回数が減ったりするなど様々なトラブルもありましたが、それでも準備委員会がスムーズに活動できるよう補佐を行うことを大切にし、他校の生徒や先生の助けをもらい無事開催前に全ての準備を終わらせることができました。特にウェルカムボードは例年より1回少ない委員会の中でも完成させることができ、大きな団結力が生まれました。

高文祭前日、当日でもできるだけ多くのことができるよう積極的に動くことを心掛け、また多くの人と交流することもできました。交流が難しいコロナ渦の中貴重な体験となり、何事もなく無事開催されたことに感謝の気持ちでいっぱいでした。

2年目のみえ高文祭を終えて、様々な作業や交流から1年目とは違った視点や考え方を得ることができ、よりこういった行事の運営の面白さ、楽しさを実感することができました。この経験を津高校での新聞・写真部での活動に活かしていきたいと考えています。

全国高総文祭 和歌山大会

近畿高総文祭 滋賀大会



# 書道部

## 第 41 回近畿高等学校総合文化祭に参加して

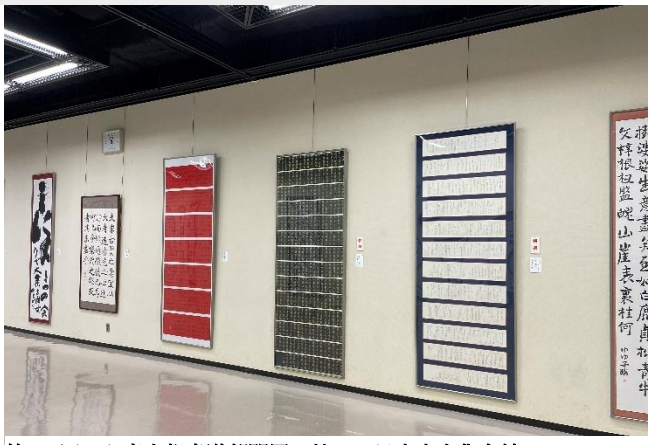
2 年　東　桃永（津市立朝陽中学校）

私は高校入学後から、仮名の臨書に取り組み始めました。それ故に、近畿高等学校総合文化祭に出品することが決まった時は、非常に驚きました。同時に、これまで以上に集中して練習しなければならないと感じました。今回の大会には仮名作品が少なく残念でしたが、創作の仮名作品や針切、関戸本古今集などから自分の作品に生かせる部分を鑑賞できました。特に、墨の潤渇、線の緩急が参考になりました。漢字作品では作品全体のバランスの大切さを学べたと思います。この大会で得た発見はこれからの作品制作に役立つものとなったと感じます。

新型コロナウイルス感染症の影響により、今年はみえ高文祭書道部門の開催が延期されましたが、近畿高等学校総合文化祭で得た発見を、十分に生かすことができました。

多くの作品を鑑賞し、長所・短所を発見し、自分の作品制作に生かすことが大切なのだということを学びました。

第 41 回近畿高等学校総合文化祭滋賀大会　書道部門
三重県代表として出品、参加　　令和 3 年 11 月 20 日
2年　東　桃永（朝陽中学）　「臨　中務集」



第 42 回みえ高文祭書道部門展　於：四日市市文化会館
特選（令和 4 年度全国高等学校総合文化祭東京大会　推薦）
令和 3 年 11 月 28 日　　2 年　東　桃永（朝陽中学）　　「臨　中務集」
2 年　大内 弘美（南が丘中学）　　「篆書千字文」

第 45 回全国高等学校総合文化祭和歌山大会　書道部門
三重県代表として出品、参加　　書道部門特別賞受賞
令和 3 年 8 月 4 日～5 日
3 年　池田　千春（桔梗が丘中学）　「臨　一条摂政集」

三重県リニア推進本部の看板揮毫
一見三重県知事と県庁にて　　令和4年2月8日
2年　東 桃永（朝陽中学）

新入生歓迎書道パフォーマンス　令和 3 年 4 月 9 日

# 陸上競技部

【全国大会】
〇2019年　全国高校総体（沖縄）
　女子400m　　出場　魚住　るり（西橋内中）

【東海大会】
〇第21回東海新人陸上競技大会
　女子400m　　1位　魚住　るり（西橋内中）

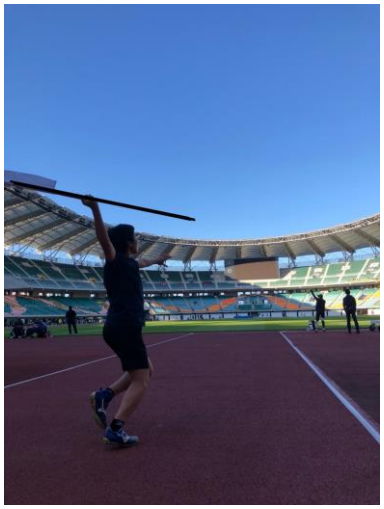
【三重県大会】
**〇第74回三重県高等学校陸上競技対校選手権大会**
**　女子三段跳び　　6位　3年　山本　華世(一志中)**

〇第58回三重県高等学校新人陸上競技権大会
　男子　走り高跳び　　2位　山田　修大（西郊中）

**〇第60回三重県高等学校新人陸上競技権大会**
**女子やり投げ　　6位　2年　大杉　遥子(桔梗が丘中)**
**［東海高等学校新人陸上競技選手権大会出場］**

〇三重県高等学校駅伝競争大会　男子総合５位　（東海駅伝出場）
１区　山際　涼介(橋南中)　　２区　城　健(阿山中)
３区　中西　佑太(白子中)　　４区　鈴木　右京(大木中)
５区　杉野　優月(千代崎中)　　６区　野田　怜臣(三雲中)
７区　西上　佳佑(名張北中)

## 「東海大会を終えて」 種目:やり投げ　2年　大杉 遥子(名張市立桔梗が丘中学校)



東海高校新人大会では、自己ベストとタイ記録が出せたものの今後の課題が多く残る大会となりました。自信を持った立ち振る舞いができず、立派なトラックに不釣り合いなちっぽけなやり投げで、とても悔しい思いを味わいました。インターハイでは大きな会場に、そして強豪校の選手に臆することなく楽しんで投げれるように、日頃の生活全てが自信となる行動をしようと心に誓い、今取り組んでいます。
津高には本気で頑張っている人を尊敬し、応援する雰囲気があるように私は感じます。人の応援があってこそ今自分はここにいることができるということを常に心に留め、それを力に変えて、大会に向け、確かな一歩を焦らず、慌てず、諦めず踏みしめていこうと思います。

# バドミントン部

令和3年度の結果

・**三重県高校バドミントン選手権**(5月30日)
　　男子団体　第5位
・**三重県高等学校バドミントン秋季大会兼選抜大会予選**(11月20日)
　　男子団体の部　第3位　東海選抜大会出場
　　男子1部複ベスト8(森喜也・中村律貴)　中部日本大会出場

私たちは男女で活動しています。
部員数が多いので、一人一人にかけられる時間は多くありませんが、毎日キャプテンを中心に自分たちでメニューを考えて練習をしています。
部員の半数以上が高校でバドミントンを始めた人ですが、積極的に練習に参加し、大会でも上位の成績を残しています。バドミントンは知れば知るほど奥が深いスポーツなので、飽きることがありません！
日々の練習では、学年を超えてコミュニケーションをとり、お互いに良い関係を築くことができます。
先輩が優しく教えてくれるので、少しでも興味、関心があれば来てください。

ぜひ、一緒にバドミントンを楽しみましょう！

2年　森 彩人(津市立芸濃中学校)・山田 陶子(津市立西郊中学校)

# 硬式テニス部男子

2年　呉山 邑都（鈴鹿市立神戸中学校）

津高校では、僕がキャプテンに任命される前、さらには入学前から、県の団体戦などで上位に入賞していたということをよく聞いていました。自分も1年生の時には先輩方や同級生の部員たちの力のおかげで様々な大会でベスト8という成績を収めることができたのです。しかし、いざ2年生となってキャプテンに任命された時は、今までのような成績を残せるかどうかとても不安でしたが、1年生や同級生の力もあり、好成績を収めることができました。

このような経験から、部活動は「助け合いの場」であると言えます。正直僕自身の力だけでは大会で好成績を収めることはできなかったに違いありません。部員全員が互いに助け合ったからこそ、それが可能になったのです。自分達は常に助け合っている、それを学ばせてくれたのは部活動での経験です。僕はテニス部での経験は、これからの将来、何ものにも代え難い力になると信じています。

## 大会結果

・令和3年度三重県高等学校総合体育大会　テニス競技の部　男子団体　**第8位**
（令和3年5月30日）
・令和3年度三重県高等学校テニス選手権大会　男子団体　**第8位**（令和3年7月11日）

# 硬式テニス部 女子

〇部員
　2 年生 5 人　　1 年生 4 人　　（計 9 人）

〇活動場所
　東コート（コートが 3 面ある方）

〇活動日時
　平日:放課後　18 時まで又は日が暮れるまで
　休日:土日どちらか半日練習
　　（大会や練習試合の場合もあり）

〇普段の様子
　先輩、後輩の仲がとても良く毎日楽しい雰囲気で部活をしています。団体戦県ベスト 8、個人それぞれ目標をもち練習に励んでいます。声を掛け合うことを意識して明るいチーム作りを心がけています。

硬式テニス部女子キャプテン　2年　秋田唯花（津市立橋北中学校）

# 剣道部

★令和３年度　春季大会　:男子団体　２回戦進出(⑯)
　　女子団体　２回戦敗退
★令和３年度　県総体　　:男子団体　２回戦敗退
　　女子団体　２回戦進出(⑯)
　　:男子個人　４回戦進出　向山　真平(3-5)
　　３回戦進出　岸田　陸太郎(3-1)
　　３回戦進出　松浦　広樹(3-8)
★令和３年度　秋季大会　:男子団体　１回戦敗退
　　女子団体　２回戦敗退
　　:女子個人　第５位　　小林　菜花(2-2)
★令和３年度　１年生大会　:男子個人　３回戦進出　向山　純平(1-2)
　　３回戦進出　梅田　拓実(1-3)
★令和３年度　新人大会　:男子団体　２回戦進出(⑯)
　　女子団体　第５位　(東海選抜大会出場)

**～主な行事～**
夏:尾鷲高校主催合同合宿
冬:京都大学主催高校招待試合・関西学院大学主催高校招待試合
　中京大学主催錬成会　等
　＊その他、紹介された錬成会には、できうる限り参加。

**「県ベスト４に向けて」**
　現在、私たちは、２年生４名、１年生３名の計７人で活動しています。
昨年度末、男子が久し振りに東海選抜に出場、いい流れで本年度を迎えました。しかしながら春にシード権を失ってからは、あと一歩のところでベスト８には届いておりません。
　一方、女子については、本年、初めて東海選抜に出場できました。男女とも少人数ですが、個々の繋がりを大事にして勝つ！！というスタイルで日々頑張っております。
　本県も私学の壁が厚いですが、”何事も一生懸命！！”の精神でまずは、ベスト８を確保、ベスト４になるべく、稽古に励みます。

# ラグビー部

**◎活動状況**

・平日・・・本校グランドにて練習（B 週月曜日は OFF）
（60～90 分の短時間で活動）
・休日・・・本校グランド又は他校と合同練習、練習試合、公式戦等
（基本的に土日どちらかは OFF）

・公式戦　　4月 ： 7人制全国予選
5月 ： 県総体
10月： 花園三重県予選
1月： 新人戦

◎上下関係のない、和気藹々と短時間集中で楽しく活動しています。
ほとんどの部員は高校からラグビーを始める素人集団です。しかし、結果も残してきています。本年度も三重県選抜チームに1名が選出されました。一緒にラグビーを通して心身共に鍛えて人間として成長しませんか？君たちの入部、ぜひ待っています。

**◎令和3年度成績**

三重県総合体育大会ラグビーフットボール競技　5位
三重県選抜チーム選出　1名

# 弓道部

## －楽射尊礼・克己精進－

弓道部は、部員 54 名。「自主自律」の下、限られた時間の中で、日々練習を続けています。弓道は高校入学後に始める人ばかりですが、1 年間で弓道の基本的な所作を身につけることができるように、2 年生が 1 年生を教えていくという自主自律の津高方式で練習を積んでいます。今年はコロナの影響があり、今まで通りの練習や試合はできませんでしたが、試合がなくなっても、校内大会を企画し試合の感覚をつかむとともに、高校生活での人間的成長の場であることを目指して活動しています。

**主な今年の活動**

①射会：月例10～11回・納射1回・新年1回、休日開催。
②大会： 春季大会（4 月 15 日） 県総体(5 月 29 日） 津市民体育大会(8 月 9 日）
新人大会・選抜大会(10 月 24 日 31 日 11 月 7 日） 冬季大会(1 月 16 日 23 日）
③上記以外の試合は中止になったため、校内でトーナメント式の試合を本番と同様の形式で行ないました。
④審査（年に 2～3 回受験。無指定・初段・弐段）
⑤講習会（津市開催の講習会参加）

# 吹奏楽部

1 年生 14 人　2 年生 18 人　3 年生 15 人

◇令和 3 年度三重県吹奏楽コンクール B 編成(8 月 7 日)　　金賞

◇令和 3 年度　第 54 回三重県アンサンブルコンテスト南地区大会(1 月 9 日)
打楽器四重奏　　銀賞　　フルート三重奏　　銀賞
クラリネット七重奏　　銀賞　地区代表　　金管八重奏　　銀賞　地区代表

◇令和 3 年度　第 54 回三重県アンサンブルコンテスト(1 月 15 日)
クラリネット七重奏　　銀賞　　金管八重奏　　銀賞

こんにちは！私たち吹奏楽部は毎日仲良く一生懸命練習に励んでいます。

吹奏楽コンクールやアンサンブルコンテスト、文化祭など様々な行事にも

参加させていただいています。コンクールも学生指揮で出場するなど、

生徒主体で部活動を運営しているため、色々な壁にぶつかることもありますが、

とても充実した日々を過ごしています。

吹奏楽経験者も、非経験者もぜひ一緒に音楽を楽しみましょう！

# 美術部

美術部は、毎週月曜から金曜日の間、好きな時に活動しています。活動時間は自由です。内容は主に文化祭やみえ高文祭、他の展覧会に向けて油絵などを描いています。
毎年読書感想画に応募しており、今年も入賞しました。
毎週水曜日にはクロッキー会を行っています。

三重国体応援旗
中止されたため出番はなかった

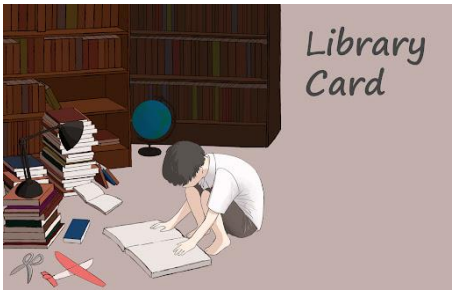
クロッキー会

部員が制作したカードのデザイン

部員が制作したパンフレット表紙

部員が制作したパンフレット表紙

みえ高文祭展示風景



部員がデザインした新図書館カード

# 第67回青少年読書感想文全国コンクール
# 三重県審査　優秀賞

2年　三谷　萌々香（津市立豊里中学校）

## 人のために、人と一緒に　（『君が夏を走らせる』瀬尾まい子著　新潮社）

以前、瀬尾まいこさんの本を読んだことがある。あたたかくて、好きだと思った。他の本も読んでみたいと思っていた。書店でたまたま手に取りあらずじに惹かれたこの本も瀬尾さんの本で、何か縁を感じたため、読むことにした。高校二年生の夏休みの話。私との共通点はそれだけだ。不良の大田が先輩の娘鈴香の面倒を一ヶ月間見るという非現実的な話。それなのに、鈴香に癒されたり大田を応援したりする時間はとても心地良くて、少なくなっていく二人の時間と本のページ数に寂しくなった。

この本を読んで大切にするべきだと思ったのは、「人のためにしたい」と「人と一緒にしたい」という二つの気持ちである。

大田は自分のことをどうしようもない奴だと思っている。彼はたしかに不良だ。しかし、鈴香の世話を引き受け、料理をしたり公園に連れて行ったりする大田は立派な保護者であり、どうしようもない奴だとは思えない。自分に自信がなくてそう思い込んでしまっているのだ。自信の有無は周りの人に影響を受けると思う。得意なことがあっても、人に披露する機会がなかったり、自分よりすごい人と比べてしまったりすると、本当に得意なのかわからなくなる。私は何度かそのような経験をした。大田もそうなのだと思う。大田は走るのが速く、中学生のときに駅伝に参加したのがきっかけで自信をつけたが、不良ばかりの高校では走る機会がなかったのだ。自信をつけることよりも、自信を取り戻すことの方がよっぽど難しい。しかし、それを可能にするのもまた人だ。そう感じた場面がある。公園でお母さんと遊んでいる子どもたちを見て鈴香は泣き出してしまう。入院中の母が恋しくなったのだ。そんな鈴香が大田を動かした。

「残念だけど、俺はお前の親じゃねえ。でも、俺、たぶん、いや、明らかにダントツにどの親より、若いし、運動能力は飛びぬけてるぜ」

と言って鈴香を肩車し、公園を走ったのだ。鈴香のおかげで大田は自信を取り戻した。駅伝とも共通するが、誰かに必要とされて、その人のために努力することは自信につながるのだと思った。そして、自分のためにしたいことは見つからないが、鈴香のため、人のためにできることはあるという大田に共感した。自分がしたことで人が喜んでくれるのは嬉しい。必要とされている感じがする。「人のため」は「自分のため」でもあるのかもしれない。だから、人のためにしたいという気持ちは大切にするべきだと思った。

もう一つ、印象に残った場面がある。中学の陸上部の顧問上原に再会し、大田は今年の駅伝チームとタイムトライアルをすることになる。苦しみながらも鈴香の「ばんばってー」という声援によってわずかな差で一位でゴールする。そして気付く。「俺はただ走りたいんじゃない。どこでも走ればいいってわけではない」「誰だっていいから、誰かと同じ場所へ向かって、体を、気持ちを動かしていたい」と。大田は人と競争して勝つことよりも人と一緒に走ること自体に価値を見出しているのだと思う。追いつきたい、追い抜きたい、そのような気持ちは一人で走っていても味わえない。誰かと一緒でないと生まれない感情は無数にある。もちろん、傷ついたり自信をなくしたりすることもあるだろう。それでも人と一緒にしたいと思えるなら、その気持ちは大切にすべきだと思う。また、大田は駅伝メンバーだけでなく、鈴香とも一緒に走っていたと思う。応援されると、その人の思いを背負うことになる。プレッシャーだと言われがちだが、一緒にがんばるよという意思表示にも捉えられる。鈴香は一歳ながら大田と一緒に走ってくれたのだ。何かを一緒にしてくれる人がいて、それを応援してくれる人がいるのは力になるし、実はとても貴重なことなのだと気付かされた。

この本から感じたことを、部活での自分と重ねてみた。私は演劇部に入っている。役者として舞台に立つことが多い。演技が得意なわけでも、将来役者になりたいわけでもないけれど、一生懸命やっている。私が演劇を好きなのは、人のためにできることがたくさんあって、一緒にがんばる仲間もいるからだと思う。劇をより良くするために案を出すとき、それが採用されなかったとしても、みんなで聞いて考えてくれたことが嬉しいのだ。人のためにしたことが無駄じゃないと思えるのは幸せなことだと思う。また、演劇を見たりセリフを読んだりするのは一人でもできる。しかし、誰かと劇を作り上げることは今しかできない。みんなが劇を良いものにしたいという思いで動いている。大会で他校の劇を見て悔しいより楽しいと感じるのは、他校の部員も同じ思いで努力している仲間として見ているからだ。人のため、人と一緒に、このような気持ちを大切に持って部活をがんばろうと思ったし、この気持ちがあれば将来やりたいことも見つけられそうだと思った。

# 第67回青少年読書感想文全国コンクール
# 三重県審査　優良賞

2年　杉本　彩華（津市立津市立南が丘中学校）

## 「ランナー」を読んで　　（『ランナー』 あさのあつこ著　幻冬社）

私が 今回読んだ本はあさのあつこさんが書いた「 ランナー」という本です。

この本を選んだ理由は、私が中学から陸上競技を始めていて、長距離走者であることから、題名に興味を惹かれたからです。私と同じランナーについての小説であれば、共感できる部分が多くあるのではないかと考えながら読み始めました。

しかし 読んでいくうちに、この本がただスポーツや青春について描かれた本ではないということに気がつきました。確かに陸上競技を中心に描かれているのですが、単にスポーツ小説と説明することができない、とても深い内容の物語でした。

主人公の碧季は高校生の長距離走者。監督が、「長距離走者になるために生まれてきたような奴なんだ」と言うほど才能があり、将来を期待されていました。しかし碧季は途中で陸上部を辞やめてしまいます。 それは、離婚後精神的に崩れていく母親と、母親から暴力を受ける幼い妹を守るためだと。碧季自信が思い込んでいたのですが、曽宇ではなかったのです。ただ一度、初めてレースで負けて、走ることが怖くなってしまったから なのでした。

長距離走に限らず、スポーツというものは、試合前や試合中の精神状態が結果に大きく関わるものだと思います。私も、レース前にマイナスなことを考えてしまって、思うように結果を出せなかったことが何度もあります。だから、碧季がレースで負けたのも、陸上競技から離れてしまったのも、家庭環境のことを考えると仕方のないことなのだろうと私も思いました。しかし、次の言葉に、本当のことに気付かされます。

「 走るの 怖くねえか？ おれは、怖ええよ」

これは、碧季と同じように走ることが怖くなってしまった友人の本音の言葉です。この場面で碧季は、母親や妹のことが、走れない「原因」ではなく、走らない「言い訳」であったのだということに気付かされます。 私は、碧季が初めてレースで負ける場面で、私の中学三年生の時のあるレースのことを思い出していたのですが、この場面でも改めて、そのとこのことについて考えさせられました。

夏に行われた市の大会で二千メートルのレースです。八位までに入ると県大会に出場することができるのですが、私はそこで九位でゴールしました。一年前の同じ大会では 八位以内に入ることができ、周りの人たちも期待して下さり、私自身も 三位以内に入ることを目標にしていました。それだけに、本当に悔しく、 それ以降は競技をあまり楽しめなくなってしまいました。

私は、碧季に自分を重ねながら読み進めました。碧季の心情がよく理解できました。

「おれはレースを怖がっていたんだ。あの惨めさをあの苦痛を、走ることが苦役となる恐怖を二度と味わいたくなかった」

この碧季の言葉は特に私の心情と重なり、中学三年生の時の経験の記憶を鮮明に蘇らせ、胸が締めつけられました。

物語は最後、碧季がスタートラインに立つところで終わります。友人、マネージャー、監督、母親や妹に支えられているからこそ、碧季は一度挫折しながらも、もう一度スタートラインに立つことができたのだと思います。このことは、スポーツに限らず、人生においても同じようなことが言えると思います。

何かに挑戦して失敗したとき、もう一度挑戦することは簡単なことではないと思います。もう失敗したくないという思いから、挑戦することが怖くなってしまうからです。挑戦することが怖いと感じてしまったとき、それを認めなければ前に進むことができません。それは自分の弱さを認めることであり、簡単にできることではありません。そんなとき、家族や友人など、周りの人たちの支えによって再び挑戦することができるのだと思います。なにより、自分自身を信じることが最も大切なのだということを、この本から学ぶことができました。

私が高校に入学して陸上競技部に入部したのは、走ることを楽しめないまま陸上競技を辞めたくない、もう一度挑戦したいと思ったからです。この本を読み終えて、私はそのことを再確認することができ、また、より強い決意へと変えることができました。

この本は、ランナーでなくても、スポーツをしている人でなくても、様々な挑戦をする人に勇気を与えてくれる本だと思います。読み終えたとき、一度諦めたことにもう一度挑戦してみよう、何か新しい挑戦をしてみよう、と思えるはずです。

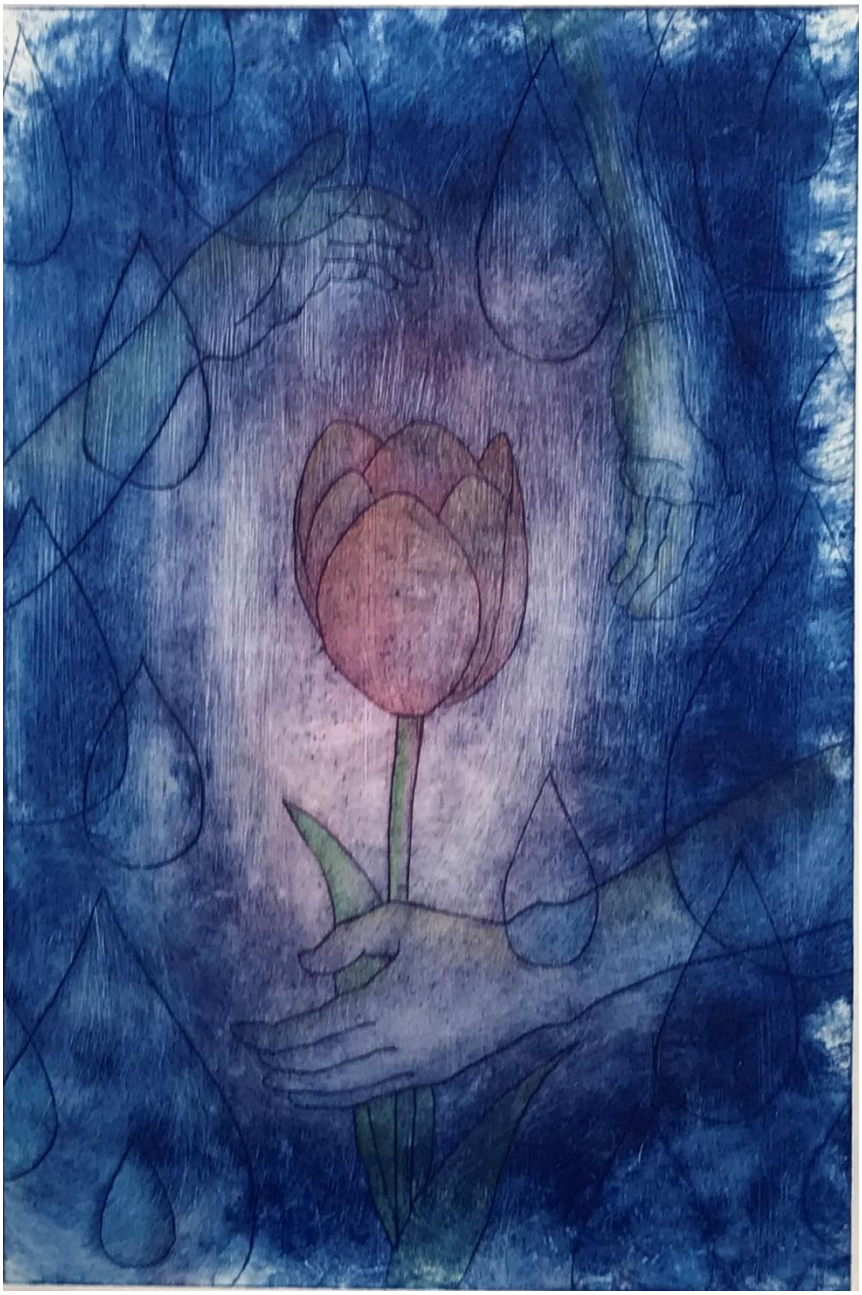
# 第３３回読書感想画三重県コンクール　最優秀賞

１年　田中　和花（津市立橋北中学校）

## 包み込む

＜作品について＞
『武器ではなく命の水を送りたい　中村哲医師の生き方』　　宮田律著　平凡社

この本の題名にもあるように、武器ではなくかんがい事業などの人道支援でアフガニスタンやパキスタンをより良くしようという中村哲氏の考え方がとても印象に残りました。また、戦争の恐ろしさや人々が平和に日々をおくることができることの尊さを改めて実感しました。この作品は、中村さんが行ってきた人道支援のような、人の優しさや慈愛の大切さを伝えたいと思って描きました。版画の雰囲気を活かした彩色が難しかったです。



# 第３３回読書感想画三重県コンクール　最優秀賞

１年　楠　れいか（三重大学教育学部附属中学校）

## アーティチョークとモリブ

＜作品について＞

『世界とキレル』　　佐藤まどか著　あすなろ書房

　モリブが自分のことをアーティチョークにたとえたのを、そのまま絵にしました。初め、モリブはいろいろなことに不満をぶつけていたのが、脱走が失敗した後から徐々におだやかになって、物語の最後には依存していたＳＮＳからもはなれ、力強くなっていきました。そんなモリブの花はもう咲いているのだと私は思い、おだやかな表情で、自分の花を咲かせているモリブをメインに本の世界観を描きました。

# 第３３回読書感想画三重県コンクール　優秀賞

２年　大川　楓香（三重大学教育学部附属中学校）

## 再会

＜作品について＞

**『きみのいた森で』　　ピート・ハウトマン著　こだまともこ訳　評論社**

　エリーとスチューイが別の世界に分かれてしまったものの、最後に再会した場面に嬉しく思いました。なので、再会した二人の喜びを表現したいと思いこの絵を描きました。この絵を描くにあたって私は世界観を表現するのに苦心しました。私はこの物語が不思議なファンタジーのように感じました。その世界観を森で表現しつつ、また二人の喜びや思い出を表現するのが難しかったです。だからこそその面はとてもこだわって描きました。

# 第３３回読書感想画三重県コンクール　努力賞

１年　西塔　美玲（津市立橋北中学校）

## 命の面影

＜作品について＞

『大切な人は今もそこにいる　響き合う賢治と東日本大震災』　　千葉望著　　理論社

震災や病気で家族や友人を失うと、死者は生きている人の心の中に根を張り、生きているのだと感じました。しかし、生きる場所が違うので、再び会える日が来ないことにも気づきました。この絵は、電車に乗り現実世界を生きる生者と、窓に隔てられ、届きそうで届かない心の中という世界に行ってしまった死者を表しています。震災の瓦礫を細かく描くのに苦労しました。現実世界は、はっきりと、心の世界はぼんやり描き、異なりを強調しました。